



梅雨入り後も高温・乾燥状態が続いています。この影響で、主要害虫の早期多発が心配されます。特にハダニ類は 5 月中旬から早期発生傾向です。盛夏期の多発が心配される場合は、早めの抑制対策（殺ダニ剤混用等）を講じてください。また、梅雨期間は、果実腐敗性病害の感染拡大に好適な高温・多湿状態が続きます。この時期の薬剤散布が遅れると一気に病気が拡大します。この時期は特に予防散布を徹底してください。

りんご

6 月中旬の薬剤散布（前回より 15 日後）

散布時期：6 月 15 日～20 日

散布薬剤：水	1 0 0 リットル
展着剤	1 0 ml
キノンドーフロアブル	1 2 5 ml（14 日前、4 回）
オーソサイド水和剤 8 0	1 2 5 g（14 日前、6 回）
劇 オリオン水和剤 4 0	1 0 0 g（前日、2 回）
スイカル	1 0 0 g（カルシウム剤）

散布量：10a 当たり 600 リットル

対象病虫害：炭疽病、輪紋病、斑点落葉病、褐斑病

シンクイムシ類、ハマキムシ類、キンモンホソガ、カイガラムシ類他、（ハダニ類）

散布日：6 月 日

散布量： リットル

ハダニ類対策

ハダニ類の早期多発が心配される場合は、ダニサラバフロアブル 1,000 倍（前日、2 回）を加用する。尚、ダニサラバフロアブルは予約価格で対応します。また、ダニサラバフロアブルに代えてカネマイトフロアブル 1,000 倍（7 日前、1 回）を使用してもよい。

輪紋病・炭疽病対策

- 曇天・降雨が続く場合は、上記の目安時期より前倒して散布する。
- 通常展着剤（ハイテンパワー等）に代えて、固着性展着剤のアビオン E の 1,000 倍（100 リットルに 100ml）を使用すると薬液付着効果が高まる。
- 炭疽病・輪紋病の感染が心配される場合は、6/25 頃にオキシラン水和剤 500 倍（14 日前、4 回）を特別散布する。

その他注意事項

- 6 月末まではサビの発生しやすい時期なので高温時の散布は避ける。
- 劇 オリオン水和剤 40 は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑をお持ちください。
- カルシウム剤「スイカル」は、ビターピット・果実軟化防止や果実からの油上がり予防、果実の日持ち性向上、新梢の徒長抑制などに効果があるので、必要により加用する。尚、スイカルに代えてストピット II の 500 倍を使用してもよい。